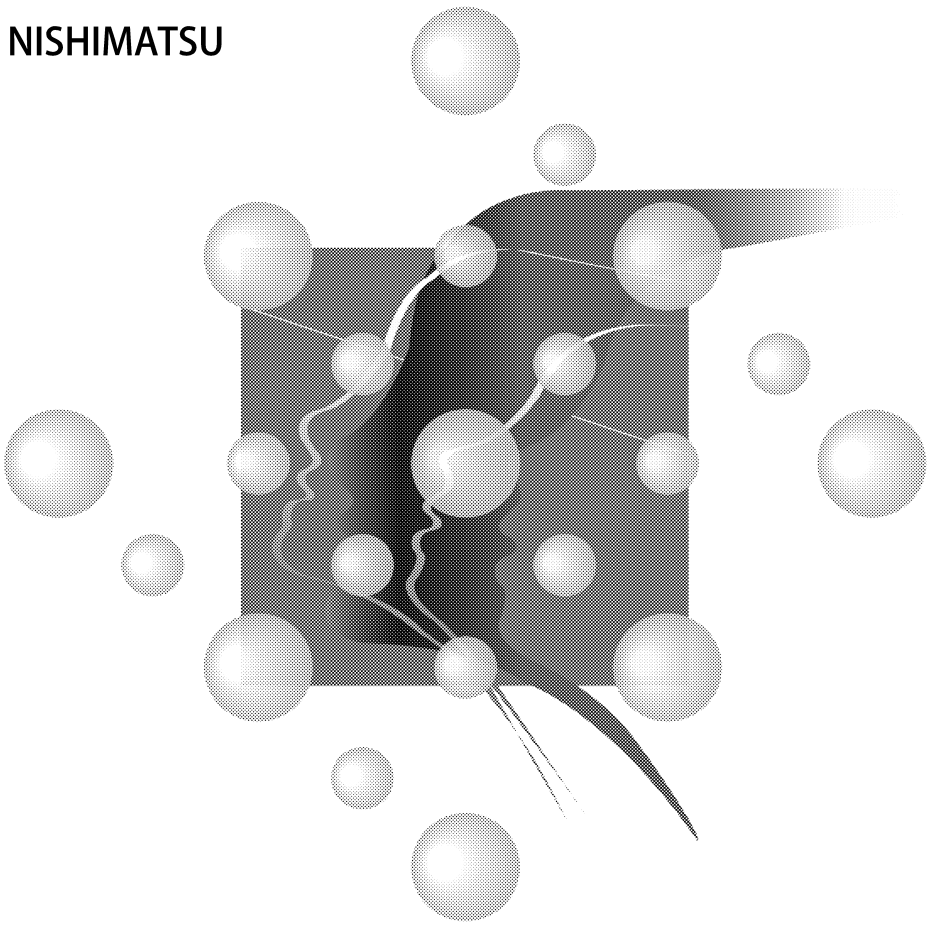


自然との調和。NISHIMATSU



自然と人との架け橋。私たちは快適な空間を創造します。

自然と人との共生。快適な空間の創造。

これこそ人類全てが目標に掲げ、次世代に受け継がなければならないテーマです。私たち西松建設は、この精神を忘れず、これからも自然と技術が融合する環境づくりを目指します。



西松建設

〒105-8401 東京都港区虎ノ門1丁目20番10号
電話 03(3502)0232
http://www.nishimatsu.co.jp/

防災のトビシマ

建ててから始まる真のお付き合い

防災のトビシマ

豊富な経験と技術力を生かし、安全で安心な社会づくりに貢献します。



飛島建設

本社／神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号
〒213-0012 TEL.044(829)6750
http://www.tobishima.co.jp

伝統を紡ぐ教育 南部もぐり



生徒は約70kgの装備を身に付け、校内のプールで潜水技術を学ぶ

南部もぐりの活躍
青森県の十和田湖にた
たずむ十和田神社は、数
百年にわたって参拝者が
湖に投げ入れたさい銭を
神社再建の資金にしよう
とした。そこで、さい銭
の引き揚げを潜水夫に依
頼したが、聖地とされて
いる湖であり、神のた
りを畏れて誰も受けよう
と

定吉の仕様の様子を見
た小太郎は定吉に潜りの
才能を見だし、ヘルメッ
ツト式の潜水技術を伝え
た。ここに「南部もぐ
り」が誕生したのであ
る。

南部もぐりの概要
1898年6月、濃霧
の中、汽笛が鳴り響く。
岩手県洋野町種市沖で函
館から横浜に向かっていた
貨客船名護屋丸が、こ
の地特有の濃霧「ヤマ
セ」により進路を見失
い、座礁沈没したのであ
る。沈没した名護屋丸を
解体、引き揚げするため
に、99年、房州(現千葉
県)から三村小太郎ら4
人の房州もぐりの潜水士
が駆けつけた。この作業
に地元者が多数難役夫
として雇われ、その中に
地元の青年、磯崎定吉が
いた。

とはなかった。そんな
中、定吉は七日七夜の沐浴
祈願により身を清めて
この仕事に挑み、20日が
かりで湖底からのさい銭
引き揚げに成功した。そ
の報酬として荷馬車7台
分ものさい銭を手にし、
これを元手に潜水を事業
とする礎を築いた。この
ことが南部もぐりの名が
全国に広まるきっかけと
なった。その後、南部も
ぐりは日露戦争や2度の
世界大戦などで沈んだ船
などの解体、引き揚げに
世界各地で活躍した。

現在では、ヘルメッ
ツト式潜水だけではなく、ス
キューバ式やフリーカ
ー式、全面マスクなど各
種の潜水方式を駆使し、
本州四国連絡橋やレイン
ボーブリッジ、東京湾ア
クアラインなどの工事、
関西国際空港の浚渫、
羽田空港の拡張工事、そ
の他に港湾土木、サルベ
ージ、海洋調査研究、水
産業など各分野、全国各
地、海外で活躍してい
る。

陸上では分業されてい
る仕事も、水中では潜水
士が全ての作業を行う。
南部もぐりの潜水士はそ
の仕事に誇りを持ち、実
直で丁寧な仕事で信頼を
築いてきた。

専門教育の内容

当時の潜水士は、潜水
病(減圧症)という職業
病に苦しめられていた。
徒弟制度により技術を身
に付け、正確な知識がな
いまま潜水病にかかり症
状を重くしていく者も多
く、潜水病にかかった者
は雇用を避けられた。そ
こで、潜水士の養成およ
び身分保障の制度化や潜
水病に対する理解を深め
ることを目的に、195
2年、南部潜水協会が発
足。科学的・学問的な潜
水教育の必要性を協会が
中心となり訴え、同年12
月には種市潜水学校が開
校したのである。その
後、変遷を経て現在の岩

人材育成の課題

手県立種市高等学校海洋
開発科となり、多くの潜
水士を輩出している。
現在、海洋開発科の生
徒らは国語、数学などの
普通科目のほか、潜水や
測量、土木施工などを、土
木系工業科目を学び、1
年生は週に3時間、2年
生と3年生は週に6時間
の実習で潜水や測量、溶
接、玉掛けなどの技術を
身に付けている。また、
潜水士や各種溶接、玉掛
けなど多くの資格取得に
向けても取り組んでいる。
また、岩手県北、沿
岸地域は少子化の傾向が
顕著で、入学者の確保に
頭を悩ませているのが現
状である。

人材育成の課題

高校全入の時代と言わ
れ多様な生徒が入学して
くる中で、水が苦手な者
や潜水以外の進路を希望
している者も入学してい
る。また、岩手県北、沿
岸地域は少子化の傾向が
顕著で、入学者の確保に
頭を悩ませているのが現
状である。

人材育成の課題

そんな中、周囲を海に
囲まれる島国である日本
では港湾や空港、橋など
の整備は必要不可欠であ
り、河川や湖沼、海など
水中での作業に潜水士の
存在は欠かせない。こ
の現状である。ヘルメ
ツト式はつないだホー
スから空気が送られ続
け、ヘルメツト内部にあ
る排気弁を操作すること
で空気量(浮力)を調節
する。そのため、潜水技
術の習熟が必要であり、
また装備を身に付け送気
ホースを繰り出すなど船
上で潜水士をサポートす
る者が多数必要であるこ
とから、簡易ですぐに潜
ることができ他の潜水
方式が主流となつてお
り、それらを実習でも取
り組んでいる。

人材育成の課題

しかし、現在まで先達
が築いてきた南部もぐり
の伝統と誇りを伝えると
ともに、高度な技術が必
要なヘルメツト式の潜
水技術を身に付けること
で、他の方式の潜水に
もすぐに対応でき、さま
ざまな場面に対処するこ
とができるの考えか
ら、ヘルメツト式の潜
水を中心に教育してい
る。



実地訓練として海での実習も行う

世界で活躍できる人材育成を

岩手県立種市高等学校
海洋開発科 教諭
下川 顕太郎



Mr. PENTA

ワクワク未来創りたい

1896年、広島県呉市にて創業した当社は、
進取気鋭の精神と先端の建設技術をもって社会に貢献し、
社会とともに成長してきました。
創業100有余年、新たなフィールドへ常に挑戦し続ける心は、
いまでも当社のDNAに引き継がれています。
時代が変わっても変わらないチャレンジスピリットと、
時代の変化に応じた柔軟な自己革新力。
現状に甘んじることなく、一歩一歩着実に、前に進む。
その先の向こうへ・・・五洋建設

その先の向こうへ

GOING FURTHER



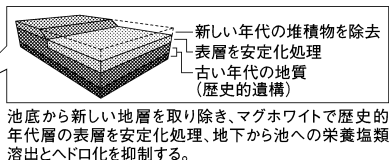
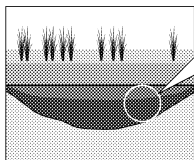
東京都文京区後楽 2-2-8
http://www.penta-ocean.co.jp



今、ふたたび映す千年。

前田建設は、世界遺産の保存・再生に貢献しています。

天喜元年(1053年)の落慶以後、ほぼ千年にわたり西方浄土のあり様を示し、国宝・世界遺産として登録される平等院
鳳凰堂。前田建設は、その荘厳な姿を映す阿字池の美しい水面を取り戻すため独自の技術投入。平安の貴重な
池底の地質を保護しながら新しい年代の堆積層 施工イメージ
を除去、残置する底質の表層を安定化処理し
環境改善が施された阿字池は、ふたたび新たな
千年を歩もうとしています。歴史と環境を守り、
その価値を次世代に引き継ぐ技術で貢献
する。“trust of the future” 前田建設です。



前田建設
http://www.maeda.co.jp